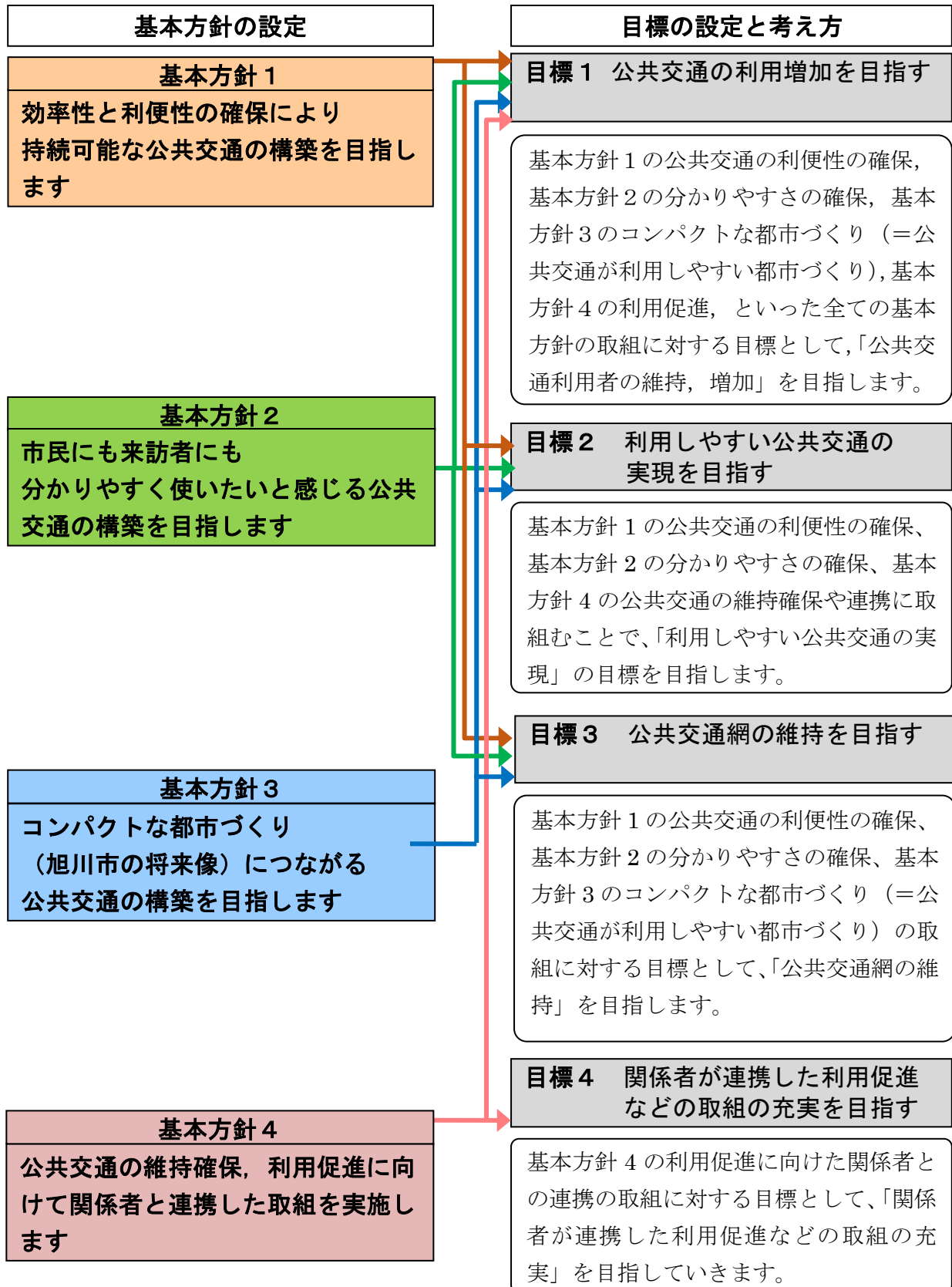


## 第 4 章 本市の公共交通網の目標

### 4-1 目標の設定と考え方

4 つの方針に対して，以下の通り 4 つの目標を設定します。



## 4-2 計画目標を評価するための評価指標

計画の達成状況を評価するための各目標に対する指標の考え方や評価方法は以下のとおりとします。

### ◎目標 1 公共交通利用の増加を目指す

#### 指標 1 路線バス、鉄道の市民一人当たりの年間利用回数

目標 1 について、路線バス、鉄道などの公共交通利用の増加を評価・検証するため、路線バス、鉄道の市民一人当たりの年間利用回数を指標 1 として設定します。平成 28 年度の年間利用回数の 1 割増を目指します。

指標 1	現況値 [H28 年度]	目標値 [H39 年度]
路線バスの市民一人当たりの 年間利用回数	バス 34.1 回/年	バス 37.5 回/年以上
鉄道の市民一人当たりの年間利 用回数	鉄道 5.9 回/年	鉄道 6.5 回/年以上

#### [指標の算出方法]

旭川市統計書の旭川市内一般乗合自動車輸送人員(総数)及びJR各駅旅客数(乗客数)を住民基本台帳の10月1日現在での人口で除し、年間市民一人当たりの利用回数を算出します。

- ・バス: 旭川市内一般乗合自動車輸送人員(総数) ÷ 住基人口(10月1日現在)
- ・鉄道: JR各駅乗客数 ÷ 住基人口(10月1日現在)

## ◎目標 2 利用しやすい公共交通の実現を目指す

### 指標 2-1 通勤や通学などの交通の便の満足度

目標 2 について、利用しやすい公共交通の実現を評価・検証するため、通勤や通学（買い物等に比べて時間的制約のある外出）などの交通の便の満足度を指標 2-1 として設定します。現況値の 1 割向上を目指します。

指標 2-1	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
通勤や通学などの交通の便の 満足度	45.1%	50%以上

#### [指標の算出方法]

市が隔年で実施する市民アンケート調査の結果を活用して評価します。

通勤や通学などの交通の便の満足について、よい、まあよいと回答した割合の合計値とします。

### 指標 2-2 公共交通体系の充実等の満足度

目標 2 について、利用しやすい公共交通の実現を評価・検証するため、公共交通体系の充実等の満足度を指標 2-2 として設定します。現況値から約 10% 向上させることを目指します。

指標 2-2	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
公共交通体系の充実等の満足度	19.7%	30%以上

#### [指標の算出方法]

市が隔年で実施する市民アンケート調査の結果を活用して評価します。

まちの機能強化(公共交通体系の充実等)と国際化の推進の満足度について、満足、まあ満足と

### ◎目標 3 公共交通網の維持を目指す

#### 指標 3 公共交通の人口カバー率の維持

目標 3 について、公共交通網が維持されているか評価・検証するため、公共交通の人口カバー率の維持を指標 3 として設定します。現況値以上を維持することを目指します。

指標 3	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
公共交通の人口カバー率の維持	82.6%	82.6%以上

##### [指標の算出方法]

500m人口メッシュデータ(最新の国勢調査データ)と、評価年の公共交通整備状況に応じた1日5往復以上ある駅(半径500m以内)とバス停(半径300m以内)のカバー状況を、GIS(地図情報システム)を用いて算出します。

### ◎目標 4 関係者が連携した利用促進などの取組の充実を目指す

#### 指標 4 公共交通の維持確保や利用促進に向けた取組の実施回数

目標 4 について、関係者が連携した利用促進などの取組の充実を評価・検証するため、公共交通の維持確保や利用促進に向けた取組の実施回数を、指標 4 として設定します。

これまでも、モビリティ・マネジメントやバスの乗り方相談会、JRの利用促進に向けたイベント、運転手確保に向けた合同就職相談会など、関係者が連携して取組を行ってきましたが、これらの取組をさらに充実させていきます。

現状値の年5回から、年10回以上を目標値とします。

指標 4-1	現況値 [H29 年度]	目標値 [H39 年度]
利用促進事業の実施数	5回/年	10回/年以上

[指標の算出方法] 毎年の実施状況について地域公共交通会議にて関係者による報告を行う

## <基本方針と目標、指標の整理>

